

**2025 年度 第 49 回総理大臣杯 全日本大学サッカートーナメント**  
**参加レポート 中国派遣審判員 山根晴喜**

この度、第 49 回総理大臣に審判員として参加いたしましたので報告させていただきます。

・参加期間・日程

9 月 1 日～5 日（大会期間は 3 日～13 日）

1 日 移動 座学研修 コンディショニングセッション

2 日 座学研修 プラクティカルトレーニング 岩手に移動

3 日 一回戦 常葉大学 VS 筑波大学 主審

4 日 フィールドワーク 「現地を知る」

5 日 二回戦 中央大学 VS 札幌大学 A1 帰宅

・今大会のテーマ

「選手の安全を守る」：サッカーを感じる、考慮事項を整理する

→選手が大きな怪我を負う事を防ぐ、正しく判定する。

・参加審判員 16 名

北海道 岩本 俊士 1 名

東北 岩佐 丈 遠藤 尊流 2 名

関東 田中 晴哉 黒澤 航介 岡本 俊佑 3 名

北信越 出倉 一渉 1 名

東海 塩津 将真 藤井 翼 水野 颯太 伊藤 遼人 4 名

関西 木下 心 多喜 功 2 名

**中国 山根 晴喜 1 名**

九州 島崎 亮典 乙川 陸 2 名 計 16 名

・1 日目

夕方ごろに宮城の宿舎に到着し、去年には無かった審判員全員集合することができ、コンディショニングセッションを行いました。夜の研修では競技規則テスト、大会要項、新ルールの確認などを行いました。

2 日目

午前中に新ルールに関するプラティカルトレーニングを行いました。ゴールキーパーの八秒制限、ドロップボール（今大会では「キャプテンオンリー」は無し）この二つを確認しました。午後は「著しく不正なプレー」選手の安全を守る為にどうすればいいのか、考慮事項

などの整理を行いました。具体的には、アプローチ、ポイントオブコンタクト、アウトカム  
この3つを考慮事項として考える、又選手の感情、サッカーを理解する事の重要性を  
議論し、審判員で共有しました。そして岩手に移動しました。

### 3日目

一回戦 常葉大学 VS 筑波大学 主審 **山根晴喜** いわぎんスタジアム Bコート

結果：1-1 PK 2-4 勝者 筑波大学

・ポジショニング：筑波が 120 分通して主導権を握っており、ポゼッションミスはあまり無いと判断したため、最終ライン付近にポジションを取った。

メリット：一番大事な PA 内の判定を近くで、動体視力が安定した状態で監視ができる。

デメリット：ポゼッションをミスした時に距離が遠い為遅れる可能性がある。

・判定：イエローカード 3 枚 延長前半 7 分の常葉の PA 内の判定 判定基準の一貫性  
→判定の良し悪しは勿論あるが、判定している主審のポジションは近くに居るので説得力はあるが、検討した方が良いとアセッサーの方にご指導いただきました。

・マネジメント：コーナーキック、セットプレーにおいて両ベンチから少し声が上がっていたのでパブリックに時間をかけ、時には強く注意する事によって抑制出来た。先打ちでマネジメントできるのが better である。

・120 分両チームタフにフェアにファイトしていた。試合感に合わせて判定基準を決めるのが重要な事である。審判員として試合を円滑に進行させる為に行動する。

### 4日目

グループに別れてフィールドワークを行いました。私のグループは盛岡城跡公園、歴史文化館、岩手銀行赤レンガ館などに行きました。昼食には盛岡名物冷麺を頂きました。大会の参加を通して現地を観光、研修できるのはとても良い経験をしたなと思います。

### 5日目

二回戦 中央大学 VS 札幌大学 A1 山根晴喜 遠野グラウンド

結果：3-0 勝者 中央大学

・意識したことは主審のサポート、ベンチコントロールなどです。主審のサポートに関しましては、一本差し違いがあったのですがあのシーンはアシスタントからしか接触が見えなかったもので、自分がリーダーシップをとって旗をあげるべきでした。ベンチコントロールに関しましては、前半ホールディングに関して札幌大学のベンチから声が上がっていたため少し後半開始前に監督の方とコミュニケーションを取りました。後半からは少し判定に関する声が少なくなりました。しかし、それが刺激になるリスクも考えなければならないので、伝え方をもっと考えて、良いものにしたいです。

・最後に

今回の大会参加にあたり、ご尽力くださいました全日本大学サッカー連盟の方々、各会場の運営スタッフの方々、指導者の皆様、スポンサーの方々、この場を借りて感謝申し上げます。また、平素より中国地域、岡山県においてご指導くださいました指導者の方、学連関係者の方々、感謝申し上げます。この大会を通して学んだことを地域に持ち帰り還元いたします。またレフェリングの向上を通して日本サッカー、中国地域のサッカーの向上に貢献していきたいと思います。ありがとうございました。

